

# 褥瘡好発部位における高い体圧発生の要因の検討 — 神経難病患者を中心とした長期臥床患者を対象に —

早坂 佳<sup>†</sup> 安堵 愛<sup>†</sup> 小松 由紀<sup>†</sup> 遊佐真由美<sup>†</sup>

IRYO Vol. 78 No. 2 (123–128) 2024

## 要旨

褥瘡<sup>じよくそう</sup>の予防のための対策を講じるために、国立病院機構山形病院 神経難病病棟の29名の患者（障害高齢者の生活自立度C2）の褥瘡好発部位5カ所（左右肩甲骨、仙骨、左右踵骨）の体圧を測定した。体圧が最も高かった部位は仙骨（平均、43.4 mmHg）で、右踵骨（34.7 mmHg）、左踵骨（33.6 mmHg）で40 mmHg以上の人があった。患者を、すべての測定部位で40 mmHg未満の人（Ⅰ群、体圧危険度1、10名）、1カ所で40 mmHgを超えていた人（Ⅱ群、体圧危険度2、10名）、2カ所（6名）および3カ所（3名）で40 mmHgを超えていた人（Ⅲ群、体圧危険度3、9名）の3群に分けた。体圧危険度に性別は関係しなかった。また、体圧危険度は年齢と体重に相関しなかったが、Ⅲ群の割合は70歳以上では低く、60 kg以上で高かった。筋萎縮性側索硬化症（ALS）ではⅢ群の占める割合は20%と低かったが、60 kg以上の患者の割合は他の疾患の患者より高かった。体圧が低いことがALSで褥瘡発生が比較的少ない要因である可能性がある。

キーワード 褥瘡, 体圧測定, 好発部位, ALS

## はじめに

褥瘡発生は圧迫による虚血とそれにとまなう壊死であり、栄養状態や基礎疾患といった全身的な状態と関連性が深い<sup>1)</sup>。そして、褥瘡ケアは、褥瘡発生の予防と形成された褥瘡の悪化防止、早期回復を促進させることである<sup>2)</sup>。

国立病院機構山形病院（当院）4病棟（当病棟）

は神経難病病棟であり、患者は全面的な生活介助を必要とする<sup>3)</sup>。また、ベッド上で臥床している時間が長いと、褥瘡発生リスクが高く、すでに褥瘡形成している患者もいる状況で、褥瘡予防や悪化防止の対策が求められている<sup>4)</sup>。褥瘡治療や発生の予防で最も重要なことは体圧を下げることである<sup>5)</sup>。そこで今回、体圧についての理解を深めるために、体圧測定器を用いて褥瘡好発部位の体圧を測定し、高

国立病院機構山形病院 看護部 †看護師

著者連絡先：遊佐真由美 国立病院機構山形病院 看護部4病棟看護師長

〒990-0876 山形県山形市行才126-2 国立病院機構山形病院

e-mail: yusa.mayumi.kr@mail.hosp.go.jp

(2023年7月27日受付 2024年2月9日受理)

A Study of Factors Influencing High Interface Pressure at the Common Sites of Pressure Ulcer in Long-term Bedridden Patients Mostly with Intractable Neurodegenerative Diseases

Kei Hayasaka, Ai Ando, Yuki Komatsu, and Mayumi Yusa

NHO Yamagata National Hospital

(Received Jul. 27, 2023, Accepted Feb. 9, 2024)

Key Words : pressure ulcer, interface pressure, common sites, amyotrophic lateral sclerosis